資料１

# 新たな総合計画策定に向けた市民参加の実施状況

第 11 次総合計画の策定に向けて、これまで参加の機会がなかった市民の皆様等の意見を聞くため、様々な形で市民参加を実施し、御意見等をいただきました。

| 名　　称 | 日　　程 | 対 象 者 |
|---|---|---|
| **ワークショップ** | | |
| あつぎ未来創造プロジェクト | 令和６年<br>10 月 12 日、26 日、<br>11 月２日 | 市内在住在勤在学の中学生以上 |
| あつぎ女性 100 人プロジェクト | 令和６年<br>11 月 23 日、27 日、<br>12 月７日 | 市内在住在勤在学の中学生以上の女性 |
| 未来つなぐワークショップ | 令和６年９月 26 日 | インターンシップ等実習生 |
| 中学・高校生によるワークショップ | 令和６年 11 月 16 日 | 市内在住在学の中学生、高校生 |
| **オープンハウス** | | |
| 厚木北地区盆踊り大会 | 令和６年７月 27 日 | 来場者 |
| あつぎ SDGs フェスティバル 2024 | 令和６年９月 23 日 | 来場者 |
| CHiKa フェス 2024 | 令和６年<br>11 月９日、10 日 | 来場者 |
| **意見交換** | | |
| 厚木市第 10 次総合計画<br>市民検討会議委員 | 令和７年１月 30 日 | 現行計画策定時の<br>市民検討会議委員 |
| カーボンニュートラル<br>あつぎ未来プロジェクト | 令和７年２月６日 | 実行委員会/運営委員会<br>委員 |

## あつぎ未来創造プロジェクト

対象者　厚木市内在住在勤在学の中学生以上29名が参加
開催日　令和６年10月12日（土）、10月26日（土）、11月２日（土）【全三回】
内　容　①あつぎの強み、弱み　②あつぎの 10 年後　③目指したいまちに必要なもの

本プロジェクトにおいて、共通して見られた意見は以下のとおりです。

| 自然豊かなまち |
|---|
| 全ての班において、「自然が豊か」「適度に田舎」「緑地や公園が多い」「残したい自然がある」「空気がきれい」「自然とまちが一体化している」「温泉がある」などといった意見が出ており、自然を活かしたまちづくりに誇りを感じていただいている傾向にあります。 |
| **子育て・教育** |
| 18 歳までの医療費助成や、給食費の無償化などの子育て政策の充実を感じている意見が多くありました。また、中学・高校生の参加者が直接、自分が医療費助成を利用していることや、給食費の無償化について感謝を述べるなど、子どもにとっても政策を身近に感じていただけているような発言がありました。 |
| **交通** |
| 電車の路線数や、バスの横移動や郊外の本数、交通混雑など、市内外への移動について課題を感じている意見が多くありました。 |
| **治安** |
| 夜間における駅前商店街のイメージや、防犯に対する不安など、治安に関する課題を感じている意見がありました。 |
| **商業・観光** |
| 大型ショッピングモールや娯楽施設など、大型施設を含む魅力的な施設の誘致を望む意見がありました。 |
| **地域活動・コミュニティ** |
| 親子参加型の農業体験や、市民サークルの活発化、コミュニティカフェの設置、など、地域交流が盛んになることを望む意見がありました。 |

## あつぎ女性100人プロジェクト

対象者　厚木市内在住在勤在学で中学生以上の女性　計97名
開催日　令和６年11月23日（土）、11月27日（水）、12月７日（土）
内　容　厚木市をウェルビーイングなまちにするために必要なこと

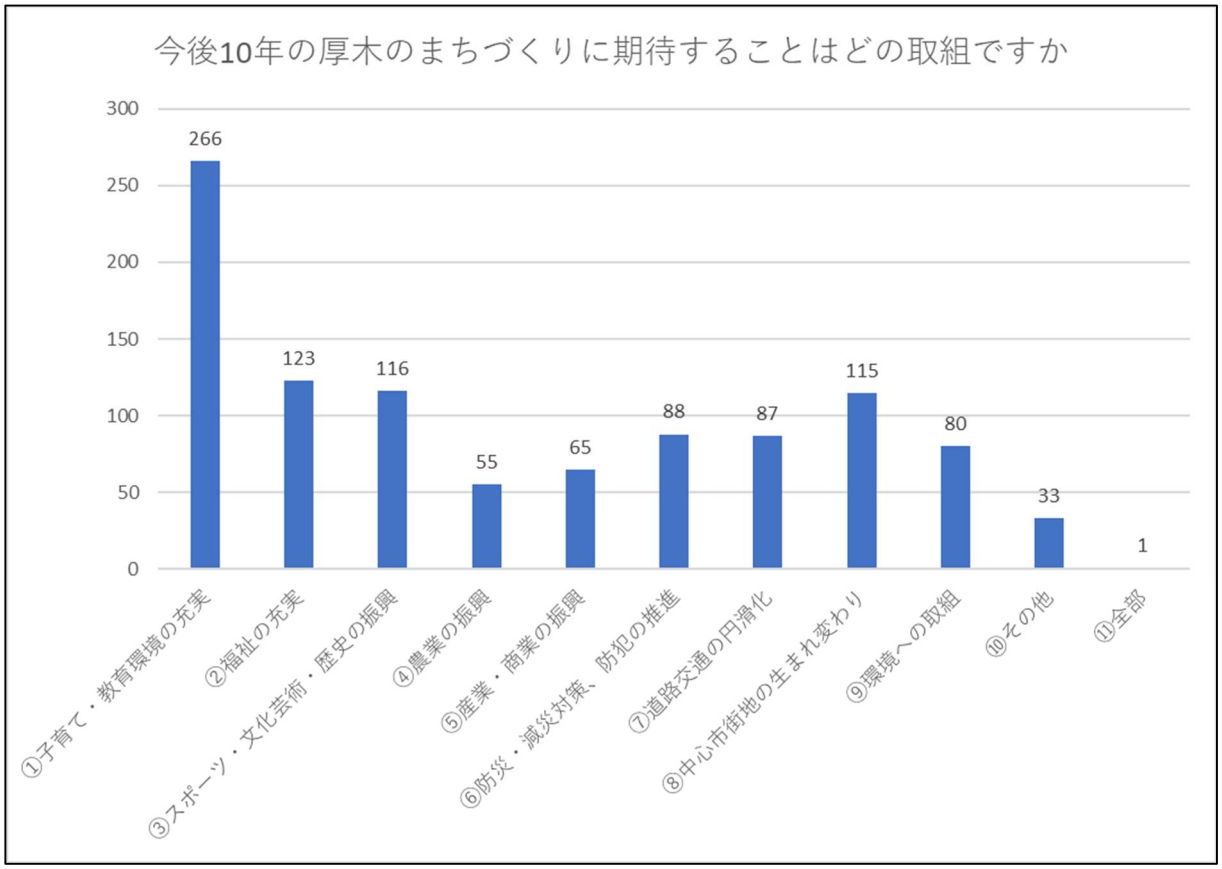
「厚木市をウェルビーイングなまちにするために必要なこと」について、共通して見られた意見は次のとおりです。

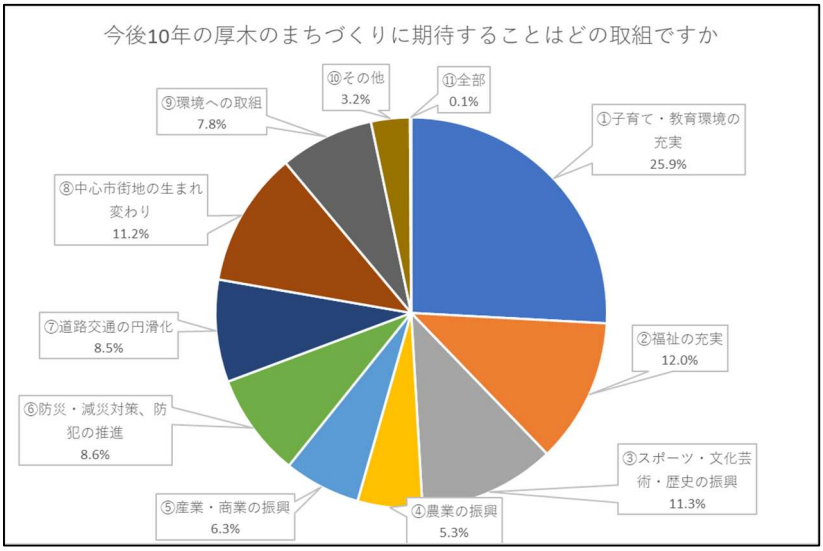
| 子育て・教育 |
| --- |
| 保育施設の増設や一時保育の充実、保育士の確保など、安心して子どもを預けられる保育環境を望む意見がありました。<br>共働きの子育て世代に対する支援として、高齢者等による見守り・送迎サービスや家事代行を行うことで、地域のつながりが生まれるとの意見がありました。 |
| インフラ・交通 |
| 交通混雑対策や特に駅周辺の駐車スペースの整備、バスの増便、コミュニティバスの運営を望む意見が多くありました。<br>道路の段差解消や、歩道・自転車専用道路の整備に対する意見がありました。 |
| 治安 |
| 防犯対策の強化や街灯の設置など、治安の改善を望む意見が多くありました。 |
| 商業・観光 |
| チェーン店でなく個人店の誘致や、温泉や自然などの観光資源を活用した厚木らしさの残る再開発を求める意見がありました。 |
| 地域活動・コミュニティ |
| 年齢に関わりなく、地域で見守り合えることが安心して暮らせることにつながるため、顔の見える交流ができる場を求める意見が多くありました。また、いつでも気軽にボランティアに参加できるなど、社会貢献できる仕組みの構築を望む意見がありました。 |
| 市民参加・協働 |
| 市民が気軽に意見を言える場を増やし、行政と市民が協働していくことを求める意見がありました。 |

また、市内外の大学生（インターンシップ実習生）を対象としたワークショップ「未来つなぐワークショップ」や、「中学・高校生のワークショップ」、「タウンミーティング（若者編）」においても、若者に共通する意見として、**自然、子育て支援**を厚木市の良さと感じており、**交通**について、バスの本数やロマンスカー・快速の停車に充実を感じる一方で地域によってバス本数が少ないことや、鉄道が一路線しかないといった課題を感じる意見が多くありました。なお、客引きの多さや街灯の少なさから、**治安**に不安を感じる意見や、**商業・娯楽施設の充実**などを理想とする意見がありました。

## オープンハウス

対象者　各イベントの来場者　計1,029人
開催日・イベント
　①令和６年７月27日（土）　厚木北地区盆踊り大会
　②令和６年９月23日（振替休日・月）　あつぎ SDGs フェスティバル2024
　③令和６年11月９日（土）、10日（日）　CHiKa フェス2024
内　容　イベント来場者を対象に、該当項目にシールを貼るアンケート



## 厚木市第10次総合計画市民検討会議委員との意見交換会

対象者　現行計画策定時の市民検討会議委員　18名
開催日　令和7年1月30日（木）
内　容　市政の現状、課題、今後の取組などの意見交換

| インフラ・交通 |
| --- |
| まちなかに人が歩ける、車いすが通れる歩道を。歩行者に優しいまちづくりを。 |
| 治安 |
| 客引きや自転車盗難などの治安についても課題。駅前がクリーンなまちに。 |
| 福祉 |
| 介護人材の不足について、サービスを受けられないという事態ではないが、サービスを受ける回数を減らしたりしていることはあると思う。 |
| 地域活動・コミュニティ |
| 住民のポテンシャルを引き出すようなコミュニケーションの場が必要。また、行政と住民の距離を近づけたい。<br>地域の担い手不足について、自治会の後継がいない、地域での協力を得がたいと感じている。 |
| 産業 |
| 今後企業が増え続けるとは思えないので、今いる企業を繋ぎとめておくことが必要。昼間人口の視点からも、大学だけでは無理。企業の誘致は税収にもつながる。 |
| 教育 |
| 幼保小の連携はここ数年で進んできているが、高校や大学まで市内の教育機関が連携できるよう、行政が間を取り持ってほしい。市内の高校や大学に進学し、地域の面白さを感じてもらうことが、定住にもつながる。 |
| 高齢者 |
| 高齢者が自分の経験を活かして活躍できるよう、教員として学校で働くことができると、高齢者の収入増や生きがいにつながるとともに、こどもにとっても、日常的に高齢者との交流や経験・知恵を学ぶ機会を創出することができる。シルバー人材センターでは、技能や技術、教育なども含めた多様な仕事ができると良い。 |
| 雇用 |
| 市内には大企業もあるので、優秀な人材が市外に出ていかないよう、厚木市の人材を積極的に採用してほしい。また、高齢者も含めて働きたい人とのマッチングの機会を作り、働きたい人がたくさんいるというシティプロモーションを行うことで、企業が集まることにもつながる。 |
| その他 |
| 政策は、仕掛けている人たちのニーズではなく、受ける人のニーズで考えてもらいたい。 |

## カーボンニュートラルあつぎ未来プロジェクトとの意見交換会

対象者　プロジェクト実行委員会委員、運営委員会委員　10 名
開催日　令和７年２月６日（木）
内　容　プロジェクトの取組、市政の現状、課題、今後の取組などの意見交換

| まちづくり・市民参加 |
| --- |
| ・これからの 10 年はスピードが違う。柔軟な取組が必要。<br>・受け手（市民）が自分事としてとらえないとまちづくりは進まない。<br>・市民が参加できる場が必要。自分の意見が言えて、まちづくりに参画していけば、シビックプライドは上がる。<br>・交通は市民に関わりづらい。人口当たり自転車利用率日本一を目指すなど、市民が何をできるかアイデアソンを実施してはどうか。 |
| カーボンニュートラルへの取組 |
| ・カーボンニュートラルは遠い未来にやってくると考えている人にいかに理解してもらい興味を持ってもらうか。補助金だけでなく、自分事としてとらえれば行動に結びつく。<br>・再エネの活用で電気が安く使えるまちを実現できるといい。<br>・近年の猛暑で公園では遊べない。ソーラーシェアリングの手法で、公園に屋根を設置できるといい。カーポートのソーラー化にも取り組む。<br>・企業が多く立地する厚木なら小水力発電を始め、環境技術に関する研究にも取り組めるのではないか。産官学で連携すべき。<br>・行政にもカーボンニュートラルを自分事としてもらいたい。住みよいまちにつながる。計画には、カーボンニュートラルの考えが全ての取組のベースとなるよう位置付けてもらいたい。 |
| 住み続けたいまち |
| ・「普通に生活していて、離れる理由がない。」そういうまちでもいいのではないか。<br>・他市との差別化、住んで良かったと思えるまちづくりを進めてほしい。<br>・鹿児島は 30 歳になったら帰りたいと思えるまち。名古屋は市民が出ていかなくてもいいと思っているまち。ここにヒントがあるのではないか。<br>・厚木を一度出て、戻ってきたら良さが分かった。公共施設やイベントを知ると楽しく魅力的なまち。もっと知ってもらいたい。 |